

2026年1月4日（降誕後第2主日、A年）

メッセージ

「この方が神を示された」

（ヨハネによる福音書1：1-18）

司祭ヨセフ太田信三

私たちは神さまに似せて造られています。けれども、いくら似てはいても、私たちは神ではありませんから、正しい道を進んでいると思っていても、いつの間にか道からズレてしまいます。このズレが、わたしたち人間の「罪」と言われているものです。「罪」とは、ギリシャ語の原文ではハマルティアという単語です。たとえば弓矢の競技で的を外れた時、審判は「ハマルティア！」と叫んだと言われている。「的外れ」ということです。的を狙って矢を放っても、手元での数ミリのズレが的に到着する頃には大きなズレになります。それこそが、わたしたちの「罪」だということです。神に向かっていると思っていても、いつの間にか少しずれてしまう。そして、気がついてみたら大きく離れてしまうのです。

人間はそのような存在ですから、いよいよ神との距離が離れてしまい、もはや自分たちがどのように歩めばよいのか、どうすれば救われるのかわからなくなってしまいました。それが、イエス様がお生まれになった頃のイスラエルの人々の苦しみです。しかしこの苦しみは当時の人々のみならず、今を生きる私たちの辛さでもあります。どう生きれば、歩めば良いのか、私たちもさまよいます。完全に正しい道など分かりえないのです。しかし神は、さまよい、神から離れ、苦しむ人間の叫びを聴かれました。私たちのために御子を遣わし、真理への道を示してくださったのです。

「言は肉となって、私たちの間に宿った。」この世界を創造した神の言、神の意志であり、神そのものである言。神そのものが、わたしたちとおなじ「肉」となられた。なぜなら、それは今日の福音の最後にある通りです。

「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」神から離れてしまい、神のことが分からなくなってしまった私たちのために、完全なる神が完全なる人として「私たち」のところに来てくださったのです。主イエスが私たちと同じところに来てくださったから、友人との交わりで相手をよく知ることができるように、主イエスとの交わりを通して、私たちは神を知ることができるのです。だからこそ、主イエスは暗闇で輝く光なのです。

神が分からず、さまよってしまう人の間に、道であり、真理であり、命である方がお生まれになりました。「恵みと真理はイエス・キリストを通して現され」ます。